

『個人山行：山スキー 開田山脈・鍋倉山』

2012年3月21日～23日

藤本(記)

案内者：中村氏（石川県の友人）

3年前に紹介した、北陸の山に詳しい友人の案内による山スキーです。（記事が遅れた）

◎21日：雪

石川県小松市・寺井駅下車。ここは、大リーガー松井秀喜の故郷「根上町」です。友人宅着、私の声を聞いた猫のプリンちゃんが玄関で迎えてくれた（覚えているのです）。今回は、開田山脈・鍋倉山の「ぶな林」を滑ります。さっそく車で出発しました。天候は良くないが、友人は「石川では普通の天気、その分パウダーを滑れる」と言う。新潟県・妙高まで来ると、深い積雪に・なおも雪が降っている。翌日の行動を考えると、テント(泊)の予定から「ランドマーク妙高高原」に変更した（一泊2100円は安い）。

◎22日：晴れ時々曇り・山頂は猛烈な風

朝起きてすぐに出発する。途中に「戸狩スキー場」があり、昔の記憶から「無料休憩所」があった筈と・地元の人に聞くと近かった。道路からゲレンデに少し入った・スキー場の末端にある建物がそれ、幸運にも暖かくきれいな大部屋でゆっくりと朝食ができました。再び車で出発し温井着。国道95号・積雪期の終点で、除雪の障害に注意して車を止める。ここでスキーにシールを貼り付ける・雪山が普通生活の友人は既に貼ってある。シール歩行開始、里から山の尾根末端に取り付き・登り行くと台地上に出た。前面に広がる・純白の屏風が長野と新潟の県境「開田山脈」。山の向こう側は「今・地滑りの板倉区」です。避難小屋から左にとって斜登行の様な登りで尾根を目指す。ぶな林に入ると一層雪深くなり、前に行く友人のスキー歩行は膝近く埋まっている。巨大なぶな林を蛇行して登り切って尾根に出ると登りは少し楽になった。巨大ぶなの尾根をシール歩行する気分は、静々と進む音・木肌の美しさ・霧氷のトンネルの輝き・広がる雪景色、これが山スキーなのです。この鍋倉山・地元及び周辺では有名な「ぶな林」で、良き友人に恵まれて来られたと思う。やがて・頂上直前の窪地で完全装備にし、強風の雪稜・風下側を進んで頂上に立った。頂上は一息入れる事も出来ない猛烈な風、写真を撮る事もなくシール滑降で窪地に逃げた。窪地でシールを外し・一息ついてから滑降準備をする。ザックを背負いチェスト・ウェストベルトを締める。新雪・霧氷のトンネルを直滑降で滑る爽快感は何とも言えない。ぶな林は、大木特有の広い樹間の為・樹木に激突の心配もなく尾根の上に直線的に滑る。我々の深いシュプールが残り、こんな新雪の深雪を滑れるようになった喜びを感じる。友人は「毎週・パウダーを求めて山に入る人」、楽しんでいきます。

ぶな林を過ぎて標高が低くなるにつれて雪質も低下して滑りにくくなる。この辺りから、私は転倒を繰り返す。「石川の悪雪に慣れている」友人は転倒しない・さすがである。里に下りても・最短ルートが無駄無理なくとる「石川県の滑り」を十分見せてもらった。◎22日・23日は悪天候の為、三田原山は中止。ゲレンデを少し滑り『スキー終了』。※友人から、来シーズン「石川のパウダー」を誘われたのだが…。